

●信濃川やすらぎ堤利用調整協議会 意見対応状況

↓○:実施(予定)、△:一部実施(予定)、—:検討、未実施

資料1-1

意見 ()は意見が出た協議会会期	R5~	今後の対応(予定)
平面計画 空間づくり		
左岸の活用、一体感の創出(12)	—	左岸の活用は市が受付する
各店舗専用の客席だけでなく、自由に利用できる空間があると良い(13)(16) 一般市民向けの場所もあると良い(16)	△	斜面を一般利用者向けに開放 芝生席として応急的な座布団(クッション)提供の実施(R3~) 焚火ラウンジを設置し自由席として提供(R3~)
テナント計画 イベント計画		
子ども連れのファミリー層が安心して楽しんでもらえるように、「子どもが過ごす場所」があるとよい(18)	△	マルシェイベントの実施(R3) 焚火ラウンジでのワークショップ(R4~) キッチンカー(クレープなどスイーツ物販)の誘致(R4~) +より魅力的なコンテンツを検討していく +SDGsに該当する取組に関しては、該当項目の明示などに努める
SDGsを意識した子ども向けのイベントがあるとよい(19)		
ピーク時、席数の不足や商品提供の遅れといった状況の際、利用者のニーズに柔軟に対応できる体制があるとよい(18)	○	キッチンカーの誘致(R4)、左岸側の新店舗誘致(R4) 芝生席として応急的な座布団(クッション)提供の実施(R3~)
イベントに紐づいた飲食チケット(クーポン)の導入(提案)(22, 事前意見書)	—	検討する
桜やチューリップの時期に、飲食とともに、身体を動かし、年齢を問わず参加できる催しの増加を期待(22, 事前意見書)	△	(春季に、デイキャンプ(R3~)、宿泊キャンプ(R4)、キッチンカー誘致(R4)を行い、賑わいの場を提供している) +より魅力的なコンテンツを検討していく
新潟市内の食や酒を使用した取組や出店を期待する(12)	△	新潟の酒蔵と連携したイベントを開催(R1~)
朝や昼食時の活用やテイクアウトの導入などを期待する(22)	△	一部店舗では昼食のテイクアウトに対応している キッチンカー誘致などにより対応していく
パッケージ化したイベントスペースの活用状況を発信し、使い方を周知することで誘致を進めていくのがよい(22)	△	SNS等で活用状況に関して発信を進めていく
地域連携 地域貢献		
自主事業は、利用者のニーズに合わせた対応や地域連携等により、利用を促してほしい(17)	△	「水辺キャンプオフィス」(R1~) → 「デイキャンプ」に名称変更(R4) ・料金とコンセプトを見直し、気軽な利用を促進 「宿泊キャンプ」(R3~) ・レンタルプランに加えて、要望の多かった持込可のプランを追加(R4)
ミズベリング終了後の芝生の保全(18)	○	芝生の損傷部(テラス設置法面、バーカウンター設置周辺、その他保護材が露出している箇所)について、芝土の補充と肥料を散布
さまざまな事業との連携を進めてほしい(他イベントチラシ内容の共有なども有効(内容の一部に他のイベントのことを記載する など))(20)	△	他イベント、周辺団体との連携を意識して進める
防災の観点も取り入れていくと良いのでは(22)	△	検討する
広報 コミュニケーション		
まちの中からやすらぎ堤に導くような案内の方法(12)	○	案内看板等の充実、デジタルサイネージの掲出など(R1~)
多言語への対応について(12)	△	観光コンベンション協会のリンクをミズベ公式HPに設置することで対応(R1~) ・チラシや看板による多言語配信は実施していない
「キッチンカー」は出店状況を情報発信し、わかりやすく広報してほしい(19)	○	公式HP上に出店予定カレンダーを掲載、公式SNSでの発信
コロナ禍におけるやすらぎ堤のアドバンテージとして、ニューノーマルな過ごし方をPRしたらどうか(19)	○	公式HPやSNS等でコロナ対策を実施している旨を周知 (感染症対策の内容は実施時の指針等に準じる)
イベントの周知期間を確保し、イベントに関して地域理解に努める(20)	○	公式HPや公式SNSによるイベントの早期周知 ・特段、イベント種別に応じて周知方法を変えることはしていない +騒音が懸念されるイベント等に関しては、開催時間の配慮や早期の周知に努め、イベント種別によっては告知方法を変えるなどして、近隣住民へ周知する
全国への魅力発信を行う上で、まずは外部の人が一目で分かりやすいコンテンツとなるように努めることや、Web等での発信を積極的に行ってほしい(22, 事前意見書)	△	SNS等により、言語に依存しない写真による分かりやすい発信などを進める
サインの充実などを検討してほしい(22)	—	検討する
安心 安全 苦情対応 その他		
異常気象・災害・緊急時の対応基準や連絡体制の明文化と周知徹底(16)	○	緊急時等における対応基準や連絡体制等を構築し、関係者間で共有する
利用者に対し、統一した現場対応をとってほしい(17)	○	出店者に防災メール登録を義務付け、中止時の連絡順序を明文化、危険行為(河川内への侵入)や迷惑行為に関する対応を記載
SUP体験(水面利用)に関して、イベント時の安全対策を行ってほしい(20)	○	ライフジャケット着用義務化、受入人数を制限
音が生じるイベントに関し、周辺への周知・運営方法の検討(22, 事前意見書)	○	これまではSNSでの周知をメインとしていた +騒音が懸念されるイベント等に関しては、開催時間の配慮や早期の周知に努め、イベント種別によっては告知方法を変えるなどして、近隣住民へ周知する
事業評価方法 アンケート調査		
利用者アンケートでは、ポストコロナ時代におけるやすらぎ堤の新しい魅力や可能性についても把握したらどうか(17)	○	アンケート項目に「安心・安全」の項目を追加(R3~) コロナ対応に関して利用者の評価を測定した 引き続き、コロナ対応を踏まえながら事業を実施していく
回遊性の向上やすらぎ堤スタイルは「ベリング」だけで評価するのではなく、上位計画や周辺計画で位置付けられているものとすり合わせて目標設定や評価をしてみたい(14)	△	市とSP間でのすり合わせを行っている
評価指標は、市と当事者の間であらかじめ評価の観点を整理したほうが良い(17)		
ミズベリングが市全体の賑わいにどのように貢献したか、広く市民にアンケートを取るのはいかがでしょうか(20)		
新潟の食の評価があってもよいのでは(14)		
新潟の食の発信及び効果測定のためのアンケート項目の追加(22, 事前意見書)	△	(新潟市回答) アンケート項目に関して検討する
アンケート項目は、新潟の景観の美しさの発信が測れるような項目や、(単純な利用者数のみでない)今後の賑わいをどのように考えていくか、リピーター数や回遊性、取組が河川と親しむきっかけになっていることが分かること(22)		
その他(やすらぎ堤スタイルについて)		
やすらぎ堤スタイルは新潟市の都市プロモーションの中でどう位置付けるか。単なるごみ拾いではなく魅力的な資産をライフスタイルに近づけて新潟らしさにどう近づけていくか(14)	△	(新潟市回答) ・「やすらぎ堤スタイル」の捉え方は様々だと考えている (やすらぎ堤での飲食、出店者が行うごみ拾い活動、水辺と都市が調和した景観、自由な活用、etc) ・「やすらぎ堤スタイル」の機運を作る足掛かりとするため、試験的に、SNSに「#やすらぎ堤スタイル」とつけて発信し、利用者への波及や投稿内容を分析するなどの試みなどを検討したい
回遊性の向上に向けた取り組みに取り組むことに意義がある。やすらぎ堤スタイルもこの事業を突破口にやってみよう(14)		
新潟スタイル(やすらぎ堤スタイル)の機運を作りたい(16)		
アウトプットだけではなく、既に取り組んでいる自発的な清掃活動など、「ミズベリング信濃川やすらぎ堤」ならではの取組内容やそのプロセスについて、「新潟スタイル」として広くアピールできるとよい。それにより、県内外の方からより注目していただけるのでは(18)		